

秋の読書週間

10月27日～11月9日



終戦から2年後の1947（昭和22）年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開けられました。

それから70年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界のなかでも特に「本を読む国民」の国となりました。

今年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりに読書のすばらしさを知ってもらうきっかけとなることを願っています。

「おかえり、葉の場所で

待ってるよ」

★マナーアップキャンペーン★（10月27日～11月9日）

図書館の入口では汚れたり壊れたりした本の展示を行っています。

図書館の本はみんなで使うものなので大切に扱いましょう。

～図書館の開館時間～

開館時間	日曜日～木曜日	10:00～18:00
	金曜日	10:00～20:00
	土曜日	10:00～19:00
休館日	毎月第1・3水曜日（祝日の場合は翌日）	
	文庫交換日【11月27日（水）】	

10月7日（月）～23日（水）は

システム更新及び蔵書点検のため休館します。

大野城まどかぴあ図書館

第37号
2019秋号

10代のための図書館情報誌

わいわいはらら

色づく景色で
季節を感じる

まどかぴあ図書館には、10代の方に読んでもらいたい本を集めたYAコーナーがあります。



おすすめの本



『風味さんじゅうまる』

まはら 三桃／著 (講談社) [マハ]
いっとあん

舞台は福岡県飯塚の老舗和菓子屋「一斗飴」。中学2年生の娘・風味は、色黒で少しぼっちゃりぎみのため黒砂糖系と祖母に分類されている。兄の北斗はイケメンのチャラ男で上白糖系。おまけに和菓子作りの才能もあるようで…。お菓子の新作コンテストがあると聞いた風味は、部活が上手くいっていないことを理由に店を手伝おうとするが、味見すら役に立てず自信を失っていく。はたしてどんな新作和菓子が完成するのか？筑豊弁が飛び交う家族の物語。



『月の光を飲んだ少女』

ケリー・バーンヒル／著 (評論社) [YA/933/バ]

ある町では毎年、一番若い赤ん坊をいけにえに捧げる儀式があり、悲しみに閉ざされている。しかし、赤ん坊たちは善良な魔女ザンに助けられ、別の町で無事に生きていた。ある年、額にあざを持った赤ん坊に心を奪われたザンは、ルナと名付け自分で育てることに決める。ところがうっかり月の光を飲ませてしまい、ルナは不思議な力を持つようになってしまった。魔女とルナ、そして町の人々の心が交錯するとき、悲しい儀式の真実が明かされる。

うまれた魔法は…



『部長会議はじまります』

吉野 万理子／著 (朝日学生新聞社) [YA/ヨシ]

中学校の文化祭のために美術部が製作していたジオラマが壊されていた！怒り狂った美術部長の発案により臨時の部長会議が開かれ、犯人探しがはじまる。オカルト研究部による突飛な推理や園芸部の反発、そして茶道部長の秘密の恋を交えながら、事態はどんどん展開していく。そして明らかになる真相とは…！？文化部編と練習場所をめぐる争う体育部編の2本立てです。



『クリエイターのハローワーク』

ビーコムプラス／著 (マール社) [YA/707/ク]

モノづくりをしている人をみて、魔法使いのようだと憧れたことはありませんか？この本はそんなクリエイターを集めたお仕事案内です。働くために必要な進路や資格だけでなく、おおまかなお給料やその職業に向いている人の適性などを紹介。実際に働いている人のお話も載っているので、その仕事ならではの楽しいことや大変なことまでわかります。あなたの知らないクリエイティブな仕事に出会えるかも！？